

Q4 他の児童の話を聞かない場合

〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

A ちゃんは、友達の話を上手に聞くことができません。また授業中の話し合い活動などでも、自分の言いたいことだけ、一方的に話して終わりにしてしまいます。

自閉症の多くは、ことばの発達に遅れや偏りを持っています。特に、話しことばの理解が難しい子どもの場合、両親や教師などが分かりやすく話しかける配慮によって、自然に耳を傾けるようになるのですが、そのような配慮ができない場合は、意味を理解しにくいのでどうしても聞けないようです。また、話し合い活動のように複数の人が代わる代わる発言する場面や、グループ活動のようにやや騒然とした環境の中で話をする場面では、必要な情報を選択して取り込むことが苦手な自閉症児には、周囲の雑音も同じレベルで耳に入ってしまう、話している友達の声を聞き取ることができないことがあります。中には、聴覚的に過敏なために、他の子どもの甲高い声を拒絶してしまう自閉症児もいます。

ある程度の会話が可能な段階の自閉症児でも、友達との自由なおしゃべりを楽しむことは難しいようです。雑談的な会話では、相手の話の中から中心となるテーマを聞き取り、自分の興味関心と関連づけながら話題を選んで話すことが要求されますが、それが非常に難しいのが自閉症のコミュニケーションの特性です。その難しさを感じている自閉症児は、自分の興味あることを一方的に話してしまう方が楽なので、どうしても友達の話を聞けなくなってしまうのです。その上、相手の表情や場の雰囲気を読みとることが苦手なので、いつまでも話がやめられなかったり、平気で話に割り込んだりすることが多いのです。

〈このような場合の支援 1〉

小学校3年生の知的障害を伴う自閉症の男児。書いたり作ったりする学習はできますが、話し合い活動になると集中できなくなります。特に友達の話はほとんど聞いていないようです。このような場合、支援の方法として以下のようなことが考えられます。

- ① 「〇〇さんが大事なことを言うからよく聞いて」などと声をかけ、前もって注意を向けさせる。
- ② 発言にゆとりのある子どもには、「◇◇君も聞いて下さい」とか「◇君分かりましたか」とか声をかけてもらうようにする。
- ③ 子どもの発言の要旨を板書しながら話し合いを進め、視覚情報で補って分かりやすくする。
- ④ グループの話し合いなどの場合は、できるだけ教師がついて子どもの話を「通訳」する。

〈このような場合の支援 2〉

小学校6年生のアスペルガー症候群女児。不自由なく日常会話ができる言語能力があるのですが、相手の話をほとんど聞かないで、自分の言いたいことだけを一方的にしゃべってしまうため、友達との自然な関係が作りにくい子どもです。このような場合、以下のような支援の方法が考えられます。

- ⑤ 「自分の好きなことをみんなが好きとは限らない」「趣味や興味関心はそれぞれ違っている」ということを折に触れて教える。
- ⑥ 会話をしている友達のそばに行き、「まず話を聞くこと」を教える。聞いていて話したいことが出てきたら、「私はこう思うのだけど」と話し始めるように教える。
- ⑦ 話のやりとりの練習教材として、学校や家庭を舞台としたマンガやアニメを勧める。
- ⑧ 努めて本人の興味関心に基づく話につき合う時間を取り、本人の気持ちを満足させるようにする。
- ⑨ 苦手な即時応答の会話ばかりでなく、画像や文章によるコミュニケーション手段の一つとしてインターネット等の利用を勧める（ホームページを開いている自閉症児本人もいます）。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子